

「 聖霊による一致を 」

詩篇 第68章 18節  
エペソ人への手紙 第4章1節～16節

説 教 本庄侑子 伝道師

ここに、完成を待つ神様の計画があります。世界を一つにするという壮大な計画です。私たちは今朝、その計画へと呼び出されました。

エペソ人への手紙第4章は、3章からの続きとして語られています。手紙の著者と言われるパウロが3章までで語ってきたのは、神様の計画の全貌でした。(第1章7～10節を参照)パウロは見ていました。神様が御子キリストにあって私たちの罪を赦してくださったこと、そして、天にあるものも地にあるものも、あらゆるものがキリストのもとに一つにまとめられるという世界の救いの計画を見ていました。

それは、聖霊がパウロの心の目を開かせていたからでした(1章17節)。だからこそ、『もっと私のように信仰深く、熱心になりなさい!』と人々に向かって語るのではなく、神様に向かって祈ったのです。彼らにも同じ聖霊を与えてください。罪の赦しを得て、自分たちが救われて終わるのではなく、なお続いている神様の壮大な計画を共に見させ、その計画に参与する将来を与えてくださいと。

今日の御言葉は、そのような祈りの中で語られます。「あなたがたが召されたその召しにふさわしく歩き」(1節)。「召された」とは神様に「呼ばれた」ということです。神様が名指して『あなた』に私の計画を聞かせたい、そして用いたいと願って呼んでくださったからこそ、私たちはここにいます。「ふさわしく」を、英語の聖書は『worthy (値する、尊い、価値がある)』と訳します。「私の目には、あなたは高価で尊い」(新改訳聖書イザヤ書 第43章4節)、あなたは私にふさわしい、という神様の宣言が響きます。

その招きと宣言は、まず私たちを教会において一つにし、世界に救いの完成の姿を指し示すためになされました。パウロはすすめます。「できる限り謙虚で、かつ柔和であり、寛容を示し、愛をもって互に忍びあい、平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。」(2節)「聖霊による一致を守り続ける」ことは『肉によって一致を造り出す』ことではありません。一致は、既に教会に実現している事実だからです。キリスト者は皆、同じ洗礼を受け、同じ聖霊を受けて一つに結び合わされています。教会に委ねられているのは、その一致を守り続けることです。「守り続ける」という言

葉には『失われないように目を向け続ける』『傷つかないように見張る』という意味があります。私たちが互いに謙虚でいられないことによって、柔和さや寛容さ、愛を忘れてしまうことによって、「一つ」という事実を失わせたり、傷つけてしまうことがあるのでしょうか。

神様は、確かに私たちを一つにしてくださいました。(4～6節) 私たちを一つの信仰に導き、一つの洗礼を与え、一つの御霊によって結び合わせ、一つのキリストの体なる教会に組み入れて一つにしてくださいました。そしてまた、キリストを信じる信仰、キリストを知る知識も一つです。(13～14節)

一方で、一人一人は皆、異なる賜物、異なる務めを与えられています。(7～11節) 皆が異なる上での一致。それが、神様による一致のあり方です。聖霊は、賜物の違いによってバラバラになっていく私たちの心を照らして、互いに補い合い、助け合うために用いさせることを通して、一致を守らせ続けます。また、私たちを一つにするキリストの愛を、御言葉と聖餐とによって繰り返し注ぎ入れ、互いに補い合い、助け合う愛の関係において成長させ続けます。そうして体全体が、あのキリストの徳の高さにまで育てられていくのです。(16節)

神様の時が満ちるとき、神様の計画は必ず完成します。一つになることは私たちの願いではなく、神様ご自身の願い。身を引き裂き、血を流すほどの熱情をもって教会において実現させ、完成に向かわせている神様の夢です。世界中に教会が立っていること、今朝もこうして礼拝が開かれていることがその証拠です。

パウロと同じ聖霊を賜わった私たちにも見えるはずですが。争い合い、バラバラになっていく私たちを一つとするために、罪を全て背負って十字架につけられ、よみがえらせ、天に昇られたキリスト。そのキリストを頭として一つになる終わりの日。今も、その日を指し示すようにして教会の一致を守らせ、救いの計画を押し進めてくださっている神様の御手が見えるはずですが。私たちは世界に据えられた神様の夢。神様にふさわしいとされ、終りの日に至るまで聖霊による一致を守り続けるために呼ばれた、神様の教会です。

(記 本庄侑子)